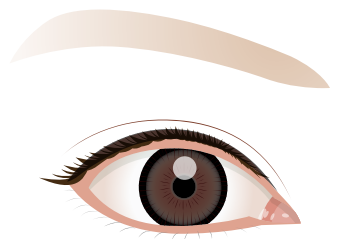




## 網膜静脈閉塞症とは どんな病気？

眼科 医師 岡山 允彦



(抗VEGF薬が登場してから治療効果が格段に向上しました。今ではこの抗VEGF薬を眼の中に注射することが、治療の第1選択となっています。)

網膜静脈閉塞症は治療のタイミングが非常に重要な病気で、早く治療することで視力の予後を向上させることができます。生活していて見え方が「おかしい」と感じたときは、早めに眼科を受診するよう心掛けてください。

また、日常的に高血圧や高脂血症、動脈硬化になりにくくなるような生活習慣を意識してください。

抗VEGF薬の眼内注射は全ての眼科で行なっている治療ではありません。現在、当院では年間約260件の抗VEGF剤硝子体注射を施行しています。地域の開業医さんと連携しながら、この病気で悩む患者さんの治療を積極的に行なっています。

※予後とは…病気や手術の後、どの程度回復するか見通しを指す言葉

**症状**  
視力低下、視野の欠損、ゆがみ、霞んで見えるなどが代表的なものです。静脈が閉塞すると、血流が滞って血管から水や血液の成分が網膜内ににじみ出てしまい、網膜出血や網膜虚血(血液の循環が悪くなること)、網膜浮腫(むくみ)が引き起こされます。

**治療**  
軽症であれば出血を止める薬を飲むことで自然軽快が期待できます。出血自体は数か月で自然に吸収され、薬で補助することとで出血によって視界が遮られていた部分は元に戻る可能性もあります。

### どんな人に取りかかると？

高血圧や高脂血症、動脈硬化が発症の原因です。40歳以上の日本人での有病率は2・1%との報告があり、男女ともに、年齢を重ねるにつれて発症する可能性が上がります。

しかし網膜浮腫(むくみ)を起すこと大変です。網膜の中心部には「黄斑」と呼ばれる部分があり、多くの視細胞が密集して

います。この部分が視力にも最も重要な役割を担っています。網膜浮腫がこの黄斑にかからなければ重症にはなりにくいですが、黄斑部分に網膜浮腫が起きる(黄斑浮腫)と前述のような症状が現れやすくなります。  
黄斑浮腫に対しては従来、レーザー治療、ステロイドの眼球付近への注射、手術が治療の選択肢でした。しかし近年は黄斑浮腫の病態には血管内皮増殖因子(vascular endothelial growth factor : VEGF) が関わっていることが明らかになりました。血管の閉塞によって網膜が虚血に陥ると、その部分からVEGFが多く産生され、血管から水が漏れやすくなることで黄斑浮腫が引き起こされると考えられています。  
このVEGFを抑制する薬剤